

令和4年度笠岡市 子ども議会報告書



令和4年8月に開催された笠岡市子ども議会について、議員の質問に対する回答とその後の取組状況を報告します。

令和5年8月

令和4年度笠岡市子ども議会報告書

令和4年8月20日（土）午後1時30分 開議

○一般（個人）質問・回答・その後の取組状況

【ごみ問題】

- ・ 1 番 宮野 怜 議員 私達にもできる自然環境を整えるための活動 . . . 1 ページ
- ・ 5 番 山下心愛 議員 笠岡市のごみ問題 2 ページ
- ・ 9 番 三好冬華 議員 海のプラスチック 4 ページ
- ・ 10 番 物部鈴音 議員 笠岡市にある島の海や海岸が汚いので整備をしてほしい
. 5 ページ

【道路整備】

- ・ 3 番 橋本健人 議員 より安全なまちづくり 7 ページ
- ・ 6 番 藤井千尋 議員 私達にもできる暮らしやすいまちづくりのための活動 9 ページ
- ・ 7 番 中井祐翔 議員 笠岡市における交通安全 10 ページ
- ・ 8 番 鞆本大晴 議員 生徒が安全に通学できるための活動 12 ページ

【人口問題】

- ・ 4 番 大隈亜優美 議員 笠岡で問題になっている少子高齢化 13 ページ
- ・ 13 番 坂部竜英 議員 人口が減少する笠岡 14 ページ
- ・ 14 番 大本夏輝 議員 若者を増やすための活動 16 ページ

【子育て支援】

- ・ 16 番 田中 董 議員 子育てに関して、これからどんな取り組み、私達ができる取組
. 18 ページ

【学校関係】

- ・ 11 番 中村人和 議員 人口が増えたら小中一貫校にしなくてはよいのではないか
. 19 ページ
- ・ 15 番 遠藤このみ 議員 みんなが平等に生活するための活動 22 ページ

【離島振興】

- ・ 12 番 岡田優志 議員 ① 笠岡島しょ部の人口問題 23 ページ
- ② 島しょ部と陸をつなぐフェリー 25 ページ

令和4年度笠岡市子ども議会報告書

テーマ	ごみ問題
質問者	1 宮野 怜
件名	1 私達にもできる自然環境を整えるための活動について
質問	<p>最近、テレビや新聞などで、ポイ捨てなどによって自然環境が破壊されたり、生き物が減少しているという話をよく聞きます。笠岡でも魚の量が減り、漁に支障がでたり、カブトガニの生態系に影響が出たりして、将来笠岡や日本での水産物がとれなくなってしまうのかと不安に思っています。笠岡市でもスーパーなどでごみを分別・回収していたり、カブトガニ保護啓発活動でボランティアを行っていたりしていると思います。今後ごみ問題で減少している笠岡の生き物を守るために、イベントなどで出すごみ箱を増やして道や海に捨てられるごみを減らし、私達もポイ捨てをせず、ボランティアなどでごみを回収していこうと思います。私達はポイ捨てがなく自然環境を整えるためにも、協力させていただくことはできないでしょうか。</p>
回答	<p>宮野議員の御質問にお答えします。ごみ問題や生き物への影響を心配していただき、大変ありがとうございます。ご質問にあるように、農林水産省によると、日本の漁業等の漁獲量は、昭和59年をピークに、昭和63年ころから平成7年頃にかけて急速に減少し、その後はおだやかな減少が続いています。減少した理由として海外での漁獲量が減ったほかに海水温や海流などの海洋環境の変化があるそうです。また、近年ではプラスチックごみによる海洋汚染やマイクロプラスチックによる生態系への影響などが世界的な問題としてクローズアップされており、皆さんが40歳を過ぎる2050年までには世界中の魚の重量を超えてしまうとの予測も発表されています。さらに、日本遺産に認定された笠岡諸島や天然記念物に指定されているカブトガニ繁殖地にもプラスチックごみが漂着しています。笠岡市では、昭和45年に笠岡市カブトガニを守る会をつくり、昭和46年には笠岡市カブトガニ保護少年団が結成されました。また、平成15年7月には全国初となるカブトガニ保護条例を制定し貴重なカブトガニを保護してまいりました。一時は絶滅したと思われていた笠岡のカブトガニですが、最近のDNA検査で細々と生き残っていたことが分かりました。このカブトガニも一時に比べ減少していますが、理由として、干潟がなくなっていることや海水温の上昇など環境変化が挙げられています。平地の少ない笠岡では、古くから干潟を農地に変え人々が暮らしを守ってきましたが、生き物の減少などが目立つ現在では、私たちの暮らしと自然環境保護とのバランスをとる共生社会の実現がことがとても重要なこととなっています。こうした環境変化を抑えるためには、皆さんのご家庭で、ごみを自然環境に出さないように、しっかり分別し回収していただくことがとても大切なことです。資源ごみについては、ご近所のごみステーションに出すほか、質問で挙げてくれたようにスーパーなどでの分別回収に出してリサイクルされるようご家庭の皆さんでご協力をお願いします。さらに一度、自然環境に</p>

	<p>出たごみを清掃活動などで回収することも大切なことです。安易にポイ捨てされたごみを回収するには、拾い集めて処理場に運び込むなど多くの時間と費用がかかります。笠岡市では、海岸や道路など一年を通していろいろな清掃活動を行っており、広報かさおかや様々なメディアを通じてボランティア清掃にご協力いただける方を募集しております。ここにいる皆さんもふるってご参加いただきご協力をお願いできればと存じます。</p>
その後の取組状況	<p>令和5年も、笠岡市では海岸や道路など一年を通していろいろな清掃活動を行っており、ボランティア清掃にご協力いただける方を募集しています。5月20日（土）には真鍋島と飛島の海岸で109人が「ボランティア海岸清掃」を、6月3日（土）には神島地区と大島地区の海岸で約300人がカブトガニ保護啓発活動にあわせて清掃活動を、6月4日（日）には笠岡湾干拓の道の駅周辺で250人が道路の清掃活動「ごみゼロ運動」を行いました。さらに7月23日に片島での海岸清掃「リフレッシュ瀬戸内海岸クリーン作戦」が予定されていますので、ふるってご参加ください。</p>
担当課	環境課

テーマ	ごみ問題
質問者	5 山下心愛
件名	5 笠岡市のごみ問題について
質問	<p>道路にごみが落ちているところをよく見かけます。最近、テレビや新聞などでも、ごみ問題についてよく取り上げられています。道路にごみが落ちていると、そのごみを車や自転車、歩行者が踏んでしまい、事故につながる可能性が考えられます。また、地域や市のイメージとしても印象がも悪くなると考えます。笠岡市では、地域や団体に清掃用のごみ袋を渡し、回収して処理したり「道路アダプト事業」という取り組みを行ったりしているとお聞きしました。今後の笠岡市に対して私たちができることとしましては、市民に向けてのポスターや市の広報紙などでごみによる問題に対する意識変化のための呼びかけや、各学校での笠岡市のごみ問題についての講演会などによって、私たち市民がごみ問題を身近な問題であると思えるように活動していただくことや、市内のごみ箱の増設を行っていただくことを考えました。最近市のごみ箱に家庭用のごみを捨てる方がいたり、ごみを分別できるようにしていても分別してくれない方がいたり、公共の場のごみ箱の利用方法において社会的に問題があることも事実で、私の考えだけでは至らぬ点もおおいと思います。そこで、未来の笠岡市がごみのないきれいな道路やそれに伴う美しい自然環境と共に生きていくために、私たちにできることはもちろん、市役所の方々の活動としましてはどのようなものを考えていらっしゃるかお聞かせ願えますでしょうか。</p>
回答	<p>山下議員の御質問にお答えします。山下議員がおっしゃるように、たいへん残念なことです。道路やその周辺にごみが落ちているのを見かけることが多々あります。岡山県内でも有名な観光名所になっている「道の駅笠岡ベイファーム」では、ひまわりやコスモスなど季節のきれいな花が咲き誇っていますが、そのそ</p>

	<p>ばを走る国道2号バイパス周辺には空き缶や吸い殻がたくさん不法投棄されています。笠岡市の友好握手都市であるマレーシアのコタバル市を小林市長が訪問した時の話です。小林市長はコタバル市でも早朝ジョギングをしたそうですが、街にごみのポイ捨てが無くキレイだった事に感心し、コタバル市長に尋ねたところ、次のような答えが返ってきました。以前、コタバル市は、ごみのポイ捨てが多い街でした。コタバル市とは友好握手都市縁組を締結して20年以上になりますが、国際交流事業でコタバル市の多くの中学生が笠岡市を訪問し、市内の中学生と交流をしています。その子どもたちが、異口同音に「笠岡市の道路にはごみが落ちていない」という印象を持ったそうです。この子どもたちがコタバル市に帰り、「自分たちの街も笠岡のようにキレイにしよう」と伝えたことで、街をキレイにする取組が始まったそうです。なんと笠岡市がコタバル市のお手本だったのです。これからも市民の皆さんと一緒に、他の街の手本となるようなごみのないキレイな笠岡にしていきたいと思います。皆さんは「割れ窓理論」という言葉をご存じでしょうか。廃校舎で1枚の割られた窓ガラスをそのままにしていると、さらに1枚、さらに1枚と窓ガラスが割られ、いずれ全ての窓ガラスが割られてしまう。そして、最終的には街全体が荒廃してしまうというものです。一旦、荒廃してしまうと元に戻すために非常に大きな労力が必要になります。同じように、道路のごみも清掃して常にきれいにしていると、ポイ捨てをされることは少なくなります。また、笠岡市の環境課では、小学校、中学校、高等学校に出向き、「ごみ問題」をはじめ様々な環境のテーマで出前講座を行っていますので、まだ聞いたことがないといわれる方は、ぜひご依頼をいただきたいと思います。山下議員が通っておられる笠岡西中学校でも、今年、出前講座をさせていただきました。大変ありがとうございました。議員がご指摘された、公共のごみ箱への家庭ごみの持込みや分別してくれないことなどもそうですが、ごみの問題は人のマナーや意識に関わるところがとても大切なこととなります。したがって笠岡市としては、清掃活動に参加することや活動の様子を報道してもらうこと、出前講座を受けていただくこと、広報紙やポスターを通して情報発信を行うなど様々な方法で、市民の皆さんに、不法投棄やポイ捨てを許さないという意識を持っていただくことで、道路などのごみを減らしていきたいと考えています。コタバル市の中学生に、最近ではコタバル市の道路の方がキレイになったと言われぬように、笠岡市もさらに街の美化に笠岡市全体で取り組みたいと思います。</p>
<p>その後の取組状況</p>	<p>市では、ごみを減らすため、ごみになる物はもらわない（リフューズ）、必要な物だけ買う（リデュース）、何度でも使う（リユース）、再生して利用する（リサイクル）の頭文字をとった4R（フォーアール）の取組を推進しています。昨年10月には、ごみの分別方法や収集日を配信する「ごみの分別アプリ」を導入しました。また、市民の皆さんに協力をお願いしながらごみの量を減らすため、市議会へごみ袋の有料化や配布内容変更の条例改正の議案をこれまで6回提出しましたが、いずれも否決されています。</p> <p>学生の皆さんも参加できる取組として、「マイバッグを持参する」「プラスチックを分別しリサイクルする」といった「プラスチックごみゼロ宣言」や、市民参加</p>

	型の清掃活動なども実施しています。市民の皆さんにも協力してもらいながら、ごみの減量につなげていきたいと考えています。
担当課	環境課

テーマ	ごみ問題
質問者	9 三好冬華
件名	9 海のプラスチックについて
質問	<p>ここ最近、年間 800 万トンの海洋ごみが発生しています。このままだと 2050 年の海はプラスチックごみであふれかえるかもしれません。環境省の調べによると、毎年 2～6 万トンのプラスチックごみが日本から流出していると推計されています。プラスチックごみの問題について、そのうち多くの人が認識している海洋ごみですが、その実態はあまり知られていません。その問題で漁師さんや魚たちが困っていないか心配です。海洋ごみの 8 割は街からきています。この現状を受けて、(スターバックスが) 世界に 2 万 8000 箇所ある全店舗で (プラスチックストローの) 利用を全廃すると発表したことを踏まえ、毎日の生活でごみを出さないようにする、外で出たごみは家に持ち帰る、プラスチックごみをちゃんと分別して資源ごみに出すなど、私達はもちろん、この先も次の世代まで、きれいで豊かな海を保っていけるように、私達も協力させていただけることはできないでしょうか。</p>
回答	<p>三好議員の御質問にお答えします。現在、プラスチックストローなど使い捨てプラスチック製品については、世界的にもマイクロプラスチックなど海洋プラスチック汚染問題が大変クローズアップされているところであり、令和元年 6 月に開催された G20 大阪サミットでは、主要テーマの一つとして話し合わせ、世界全体が共有する重要な課題であると認識しています。私達は、戦後便利な世の中を追求し続けてきて、一方で自然環境を破壊してきました。18 世紀イギリスを発端に産業革命が起き、それ以降 CO2 を大量に発生させ技術革新を進め、より速く、より便利な社会になってきました。その代償としてオゾン層を破壊して、地球温暖化を進め、最近の地球規模での大規模災害を考えると、この便利な世の中と無縁だとは思えません。便利になるとごみが増える、そのごみの代表がプラスチックです。プラスチックを製造する過程で多くのエネルギーを使い CO2 を発生させます。また、使い終わったプラスチックを燃やして最終処分するにもエネルギーが必要であり、ポイ捨てすれば海洋マイクロプラスチックとなり、自然環境を更に破壊することに繋がります。だからといって、私達はプラスチックの使用を止めたら、途端にジュースもコーヒーも毎日カバンの中にグラスを持参して、量り売りを買わなければならないなど、とても不便な生活に戻ってしまいます。「ごみを減らす、自然環境を守る」ことは、私達が「不便になる」という大きな代償を払うことの覚悟が必要となります。更にどんどん便利になっていくのが良いのか、ごみを減らして地球温暖化を防ぎ、他の生き物たちとの共生社会を維持することが良いのか、結論は見えているようで、決して今それに向かって近づいているどころか、まだ逆行していることを私達は悟らなければならないし、こ</p>

	<p>れから相当な努力が求められます。私達が今できることは、できるだけプラスチックを使わないことを心がけ、使った時は処理、回収をしっかりとするといった一人ひとりの毎日の取り組みがとても大切です。こういった小さな取り組みでも、それぞれの立場でできることから始め、プラスチックと賢く付き合っていくことが重要です。どうか、皆さんこの取組を通じて環境保全やプラスチックごみ問題に対して関心を持ってもらうとともに、周りの皆さんにもぜひ広めていただきたいと思います。笠岡市内にスターバックスはありませんが、他の飲食店でもプラスチック製品廃止の取組が広がるよう皆さん一緒に努力していきましょう。以上でございます。</p>
その後の取組状況	<p>海洋プラスチックごみ問題は世界全体が更に差し迫った喫緊な課題であると捉えており、5月の広島サミットに先立ち4月に開催されたG7札幌 環境相会合でも議題にあがり話し合われました。海ごみに関しては、身近なプラスチックごみを減らす行動も海洋プラスチックごみを減らすことにつながります。「マイバッグを持参し、レジ袋をもらわない」「マイボトルを持ち歩き、プラスチックのカップ、ペットボトルの使用を減らす」「マイ箸を持ち歩き、プラスチックのスプーンやフォークを減らす」などといった「プラスチックスマート」の取り組みをひとり一人から実践してもらえるよう、広報、HP、学校や地域の出前講座、FM放送などのメディアにも協力をいただき、あらゆる機会をとらえ周知・啓発を図っています。</p>
担当課	環境課

テーマ	ごみ問題
質問者	10 物部鈴音
件名	10 笠岡市にある島の海や海岸が汚いので整備をしてほしい
質問	<p>笠岡市にはたくさんの島があります。しかし、島の海や海岸が汚いのが現状です。そのため、海水浴客など島へ来る観光客が減少しています。また、島の商店にお客さんが来なくなっています。島の人達は定期的に清掃活動を行っていますが、笠岡市でも海岸清掃や海水浴場の環境整備をしてもらいたいです。私達もきれいな海をたもてるように地域のボランティアに参加したいと考えています。今後、笠岡市の島の海や海岸がきれいになってたくさんの人が海水浴などに訪れてくれるように私達にもできる範囲ではありますが、協力させていただくことはできないでしょうか。</p>
回答	<p>物部議員の御質問にお答えします。物部議員がおっしゃるように、海岸には様々なごみが集まり、せっかくの美しい景観が損なわれているところがあります。こうしたことが観光客の減少の原因の一つになるかもしれません。これまで私達は経済の発展を優先して環境を犠牲にすることを容認してきました。その結果、地球温暖化等により激しい自然災害が多発したり、海面上昇により小さな島が国ごと沈むような状況になっています。この問題を解決するため、私達は経済と環境をバランスよく両立する共生社会を実現しなければなりません。そうした世の中が大きくカジを切ろうとしているところに私達や皆さんは立っています。海ごみ</p>

	<p>の約7割から8割は陸地から出て水路や川などを流れてきたものとされ、一度海に流出したごみは回収することが非常に困難であり、今この瞬間も増え続けています。海岸に打ち上げられるごみは、そのようなごみの一部であり、この他にも拾うことが難しい海底に沈むごみや海を漂うごみもあるため、陸地においてごみを自然環境に出さず、しっかり回収することが大変重要なこととなります。さらに、海ごみの中でも特にプラスチックごみが海へ流れて細かく砕かれ「マイクロプラスチック」となり、それを魚などがエサと間違えて食べる、その魚を私たちが食べる、これが繰り返されることで、私たちにも悪い影響があるのではないかと心配されています。こうしたことから笠岡市では、プラスチックがリサイクルされず廃棄されることをなくし、あわせてポイ捨て・不法投棄などの撲滅を目指し、今年4月の市制施行70周年にあわせ「かさおかプラスチックごみゼロ宣言」を行ったところです。笠岡市では、海岸や道路など一年を通していろいろな清掃活動を行っています。たとえば海岸清掃の例を挙げますと、5月28日に神島水道一帯におきまして「カブトガニの生息地保護に向けた清掃・啓発運動」を行い、市内の中学、高校、保護団体など30団体から約200人の方に参加いただき、カブトガニの生息環境を守る注意喚起とあわせて海岸の清掃活動を行いました。また7月3日には、カブトガニ繁殖指定地やその周辺におきまして「リフレッシュ瀬戸内海岸クリーン作戦」を行っています。これは、美しい瀬戸内海を守り、文化・観光・海洋レクリエーションの拠点として、また快適な生活の場として発展させることを目的として、市内外から延べ755人の参加者のご協力により清掃活動を行い、1トンを超える量のごみを回収しました。宮野議員さんへの回答でも申しましたが、笠岡市では、広報かさおかや色々なメディアを通じてボランティア清掃にご協力いただける方を募集しております。一人でも多くの方が参加していただければ、回収できるごみの量も増えますし、参加した皆さん一人ひとりがごみを出さないという気持ちになってもらえると思いますので、是非ここにいる皆さんもふるってご参加いただけると大変ありがたく存じます。最後に、一番大事なことは、市民だけの問題ではなく、市役所だけでも問題解決はできません。市民も市役所も当事者として、未来の子どもたちにキレイな海を引き継ぐために、陸地部ではごみのポイ捨てを絶対しないよう、1人ひとりの意識を高めることがとても大切なことです。私たちは、皆さんが大人になった時に、この笠岡市をバトンタッチする時には、必ず今よりキレイな海にしてお渡しできるよう全力で頑張ることを誓います。以上でございます。</p>
<p>その後の取組状況</p>	<p>今年も大雨のあと、川を流れた陸地のごみが漂着し海岸を汚しています。海ごみを減らすため川や海に出る前にしっかり回収することが大切です。海を生活の糧としている漁師の方々も、海や海岸に流れ着くごみ「海ごみ」を大変問題視しており、笠岡市では、年2回程度、漁業者の方などと協働で海岸清掃を行ったりしています。また、漁師の人は、日々の仕事で網に入ったごみを陸地まで持ち帰り、まとめて処分するなど自分たちの海をキレイにする取り組みを行っています。令和5年度も笠岡市では海岸や道路など一年を通していろいろな清掃活動を計画し、ボランティア清掃に協力いただける方を募集しています。5月20日(土)に</p>

	は真鍋島と飛島の海岸で 109 人が「ボランティア海岸清掃」を、6 月 3 日（土）には神島水道一帯におきまして「カブトガニの生息地保護に向けた清掃・啓発運動」として市内の中学、高校、保護団体など 30 団体から約 300 人の方に参加いただき、カブトガニの生息環境を守る注意喚起とあわせて海岸の清掃活動を行いました。6 月 4 日（日）には「道の駅笠岡ベイファーム」を中心に干拓内で約 250 人が道路の清掃活動「ごみゼロ運動」を行いました。今後は、7 月 23 日（日）8 時からカブトガニ繁殖指定地やその周辺において「リフレッシュ瀬戸内海岸クリーン作戦」が予定されていますので、ふるってご参加ください。
担当課	環境課

テーマ	道路整備
質問者	3 橋本健人
件名	3 より安全なまちづくりについて
質問	<p>毎年、国内で交通事故は 30 万件程度おきています。その中で 3,000 人前後の方が命をおとしています。特にテレビや新聞などで高齢者や若い人が巻き込まれるニュースをよく見聞きするようになりました。学生や高齢者の方がよく使う道で危険な場所があると、事故の可能性は高くなると思います。また、生活環境の整備が不十分だと私達も暮らしにくくなると思います。笠岡市でもこれまでに危険な箇所の点検や整備などを行ってきたと思いますが、まだまだ行き届いていないと思いました。見通しの良い道路の整備、白線などのラインを塗り直すことで、車道と歩道の明確化、スクールゾーンであることをもっと分かりやすくする等の交通安全対策の更なる実践をお願いしたいと思います。私達も交通ルールを守るや、危険だと思うところでは止るようにするなど自分達ができる取り組みを積極的に行っていきたいと思います。交通事故のない安心安全な笠岡市を目指して市民意識の向上のために私達の意見を取り入れてもらうことはできませんか。</p>
回答	<p>橋本議員の御質問にお答えします。橋本議員のおっしゃるとおり、交通事故のニュースは、残念ながら後を絶ちません。昨年、千葉県八街市では、下校中の小学生の列にトラックが突っ込み、5 人が死傷した事故や、岡山県内でも総社市の国道で、横断歩道を渡っていた幼稚園児の女の子 2 人と、それぞれの母親 2 人の合わせて 4 人が乗用車にはねられ、このうち女の子 1 人と母親の 1 人が意識不明の重体になった事故などは記憶の新しいところです。笠岡市の交通安全対策も十分とは言えない状況で、道路整備や薄くなったラインの引き直しも全てが出来ているわけではありません。現在、本市が行っている交通安全対策といたしまして、小学生、中学生の通行の安全を確保するため、交通安全プログラムを実施し、小学校中学校の先生やお父さん、お母さんの代表の方々、警察、岡山県と合同で通学路の点検を行い、安全に通行できるように、通行の確認が取りにくい箇所にカーブミラーの設置や自動車が入り込まないようにガードパイプ等の設置、自動車のスピード出し過ぎないようにしてもらいたい所には、路面に記号や文字を書くなど児童生徒の皆さんが安全に通学等出来るよう工事を行っています。また、皆さんが住んでいる各地区では、町内会長さんなどとお話しして、危険箇所の工事</p>

	<p>や修繕をしたり，市道の草刈り，カーブミラーの清掃なども行っています。市内に市の管理する道路は1,293 キロメートルあり，交通量の多い幹線道路は業者の方をお願いしたり，市職員で草刈りを行う事もございます。笠岡市は市民1人1人が納めてくれる税金で運営されています。この税金は国のルールに基づき徴収していますが、笠岡市内の道路整備や交通安全のためにだけ使われている訳ではありません。小中学校の運営にも使われていますし、子育て支援や高齢者の介護等にも使われています。限りある税金を有効に活用するには、当事者である市民の協力が欠かせません。現在各地区の皆様をお願いしているのは草刈り機の刃や混合油等をお配りして，各地区で実施していただく「道路アダプト事業」への登録でございます。この事業は，生活道路などを我が子のように慈しんで清掃や草刈りを実施していただく事業で現在107団体の登録をいただいているところでございます。登録団体は年々増えておりますが，全ての道路が対応出来ているわけでもございません。道路はみんなのものでみんなが使うものです。市役所と市民全員で力を合わせて守っていくという思いを持っていただくことが一番ではないかと思っています。皆さんが自分の事として考えていきませんか。交通安全も同じです。皆さんが交通ルールを率先して守り，みんなに広めるようにしていきましょう。本市といたしましては，将来良い状態で皆さんにバトンタッチしたいと思っています。その為にも今から皆さんにも当事者としての意識を持って頂き、道路の危険箇所や改善してもらいたい点があれば、どんどん市役所に教えてもらいたいんです。みんなが当事者として笠岡市を盛り立ててくれたら、笠岡市は周辺の人たちから羨ましがられる素晴らしい街になると思います。引き続き各地区の皆様には，道路アダプト事業への登録をお願いし，きれいな道路を維持すると共に道路の安全確保に向け，今後も橋本議員をはじめ，市民の皆さんのお話をお聞きし，協力しあって，道路の危険な箇所の修繕等を行い，安全に通行できるように取り組んでいきたいと考えています。そして，笠岡市を住みやすいよい町として残していきましょう。</p>
その後の取組状況	<p>(道路整備まとめ)</p> <p>皆さんに安全な通学を行っていただくため，通学路プログラムの中で，市へご要望があった箇所は，21箇所あります。その内，13箇所について対策済みで，残りについても順次対策を行って行く予定としております。また，各地区で市が管理している道路や河川を綺麗に清掃していただいている団体は，前年度より4団体増えて111団体となりました。これからも，市役所と市民全員で力を合わせて素晴らしい街になるように頑張ってください。現在，市では気軽に道路や河川の異常をスマートフォンから通報してもらえらるシステムを考えておりますので，皆さんも参加してもらい一つでも多くの危険箇所をなくしていけたらと思います。</p>
担当課	建設管理課

テーマ	道路整備
質問者	6 藤井千尋

件名	6 私達にもできる暮らしやすいまちづくりのための活動について
質問	<p>最近、私達が歩いている時に、前から自転車が来ても離合できなかつたり「歩道が暗くて危ないな」と思うことがあります。実際に私は前から自転車が来てひかれそうになっていた歩行者を見たことがあります。その時「危ないな」と思いました。そして歩行者と自転車との事故も多発していると聞きます。笠岡市でも市の管理内で市への要望があった場合、予算内で整備を行っています。今後は事故などを減らすために道路やインフラを大切にしていこうと思います。私達の後の世代の人達のためにも協力させていただくことはできないでしょうか。</p>
回答	<p>藤井議員の御質問にお答えします。道路のインフラの大切さ、後の世代の方々への協力、本当に温かいお言葉ありがとうございます。交通安全については、道路の利用者と市役所など道路の管理者の双方で安全を意識する必要があると思います。戦後の日本は、先の大戦の反省から早さや大量生産を優先するなど経済・効率優先の政策を取り、環境を二の次にして便利さを追求していました。その結果が地球規模での気候変動や温暖化を招きました。このようなことから近年の線状降水帯での豪雨や大規模な台風の襲来など大きな災害を招いています。例えば、平成30年の西日本豪雨でもたらした線状降水帯です。この豪雨は3日間で400mm近い雨が降り、市内各地で土砂崩れや北川地区では河川の氾濫により家屋が浸水した大災害となりました。藤井議員も記憶に残っているのではないのでしょうか。このようなことから、地球環境を優先した自転車の利用や歩行者を優先した施策が日本中で求められるようになってきています。一昨年、菅元総理大臣が西暦2050年までの脱炭素社会への実現を宣言し、国もエネルギー政策を転換し、再生エネルギーへの転換を急いでいます。今より多少不便になるものもあるかもしれませんが、電気自動車、自転車などの環境に優しい乗り物と歩行者などとの共生社会を目指していきます。当然のことながら、本市としても太陽光も含めた再生エネルギーへの転換や環境にやさしい乗り物への転換など、積極的に進めなければなりません。市道の管理者としては、藤井議員もおっしゃるとおり、笠岡市の交通安全対策は十分とは言えませんので、先程申し上げた今後進んでいくであろう脱炭素社会への視点も入れつつ、歩道や自転車の通行帯を少しずつでも整備し、皆さんの使いやすい道路を整備していく必要があると考えています。そのような中で、利用者の皆さんは、交通ルールを守ることを意識していただきたいと思います。自転車の運転行動は、認知、判断、操作のどこかでミスを犯すと交通事故に発展する恐れがあります。例えば、あそこから人が飛び出してくるかもしれないと思えば、ブレーキを構えるし、ブレーキをかけることも出来ると思いますので、危険予測をしながら自転車を運転するようになっていただければ幸いです。皆さんが交通ルールを率先して守り、みんなに広めるようにしていきましょう。市内に市の管理する道路は1,293キロメートルあり、交通量の多い幹線道路は業者の方をお願いしたり、市職員で草刈りを行う事もございます。また、現在各地区の皆様をお願いしているのは草刈り機の刃や混合油等をお配りして、各地区で実施していただく「道路アダプト事業」への登録でございます。この事業は、生活道路などを我が子のように慈しんで清掃や草刈りを実施していただく</p>

	<p>事業で現在 107 団体の登録をいただいているところでございます。登録団体は年々増えておりますが、全ての道路が対応出来ているわけでもございません。道路はみんなのものでみんなが使うものです。市役所と市民全員で力を合わせて守っていくという思いを持っていただくことが一番ではないかと思っています。藤井議員からの御協力の申出もありますので、皆さんがお気づきの点や、道路の管理者である市の方で、対応してもらいたい道路の穴などいつもと道路の状況が違っている危険なところがありましたら、今後の安全にも繋がりますので、ご連絡下さいますよう御協力をお願いします。我々の責務は「今ここにいる議員のみなさんも含め未来の子どもたちにも」住みやすいまち、住んで良かったと思えるまちを受け継げるようにしなければなりません。これ以上、気候変動や温暖化が進まないよう、今、何ができるかをしっかり考え、それを市民のみなさんと共有し笠岡市全体で実行していくことが大切だと思っています。以上でございます。</p>
その後の取組状況	(道路整備まとめ) 前質問と同じ
担当課	建設管理課

テーマ	道路整備
質問者	7 中井祐翔
件名	7 笠岡市における交通安全について
質問	<p>僕はたまに歩道がない道を通ることがあります。そのとき、自動車との距離が近くなり危ないと感じることが多くあり、安全性がおびやかされていると思います。また、歩行者や自転車に乗っている人、特に子どもや高齢者が歩道がない道を通るときに自動車との距離感が近くなることによってその道が通りにくくなっているか心配です。そのために国道 2 号などの大きな道路に歩道がついてない場合、その場所に歩道を設置する、歩行者が通れる場所を確保するなどといったことを市役所にしてもらったり、自分達が歩道を設置して欲しい場所を市役所に伝えたり、歩道がない場所を認知しておくことが大切なのではないかと考えています。この先、笠岡市が誰もが安心安全に暮らせるようにしていくためにも、歩道の設置の検討をお願いします。</p>
回答	<p>中井議員の御質問にお答えします。笠岡市の交通安全対策は決して十分とは言えないと考えておりますが現在、本市が行っている交通安全対策といたしましては、小学生、中学生の通行の安全を確保するため、交通安全プログラムを実施し、小学校、中学校の先生やお父さんお母さんの代表の方々、警察、岡山県と合同で通学路の点検を行い、安全に通行できるように、通行の確認が取りにくい箇所にカーブミラーの設置や自動車等が入り混まないようにガードパイプ等の設置、自動車にスピードを出しすぎないようにしてもらいたい所には、路面に記号や文字を書くなど児童生徒の皆さんが安全に通行できるよう工事を行っているところでございます。戦後の日本は、先の大戦の反省から早さや大量生産を優先するなど経済・効率優先の政策を取り、環境を二の次にして便利さを追求していました。その結果が地球規模での気候変動や温暖化を招きました。このようなことから近</p>

	<p>年の線状降水帯での豪雨や大規模な台風の襲来など大きな災害を招いています。しかし、これからは自転車や歩行者優先の道路を整備するなど地球環境を優先した施策が求められるようになります。一昨年、菅元総理大臣が西暦 2050 年までの脱炭素社会への実現を宣言し、国もエネルギー政策を転換し、再生エネルギーへの転換を急いでいます。今より多少不便になるものもあるかもしれませんが、電気自動車、自転車などの環境に優しい乗り物と歩行者などとの共生社会を目指して行かなければなりません。中井議員の質問の中の道路に歩道を整備する場合に課題となるのは、自動車及び歩行者が通る幅を確保できるかという点になります。歩道として整備する場合には、現在の道路より外側に歩道を整備するようになりますので、その土地を持たれている方々から用地を提供してもらうこととなるため歩道整備が進まない状況がございます。本市といたしましては、幹線道路等交通量の多い道路のこれからの整備にあたっては、先程申し上げた脱炭素社会への動向も注視しつつ歩道や自転車通行帯の整備を検討し、歩行者や自転車にとって、より安全で使い良い空間の確保を目指してまいりたいと考えております。また、道路によっては、市以外の国や県等が管理しておりますので、国道や県道で歩道が必要な箇所については、皆さんの声をいただいて、国道事務所や岡山県に要望していきたいと考えています。以上でございます。</p>
その後の取組状況	(道路整備まとめ) 前質問と同じ
担当課	建設管理課

テーマ	道路整備
質問者	8 鞆本大晴
件名	8 生徒が安全に通学できるための活動について
質問	<p>金浦中学校周辺には危険な用水路や川があります。そのため通学時に用水路や川へ落ちたり落ちそうになったりする人がいます。これは自転車だけではなく、車も通りにくいという悪影響があり実に住みにくくなっています。笠岡市でも危険な場所にはサクやフタがしてあり、通行がしやすくなっています。ですが、まだ完全にできている訳ではなく危険性の高い場所が多くあります。僕たちも自分の命を自分自身で守るために、自転車のスピードの出しすぎ、並列運転や話しながらの運転をやめて安全運転を心がけていきたいと思えます。しかし、自分達の意識だけでは限度があると思えます。そのため安全に通学できる住みやすい街をつくるために、市はどのように危険な場所かを判断し、どのような順番で設置していただけますか。</p>
回答	<p>鞆本議員の御質問にお答えします。自転車のスピードの出しすぎ、並列運転や話しながらの運転を止めるなど安全運転を心がけていきたいとの思いありがとうございます。これまでの質問への答弁でもお話しさせていただきましたが、現在、本市が行っている通学路の安全対策といたしまして、小学校、中学校の通行の安全を確保するため、交通安全プログラムを実施し、小学校、中学校の先生やお父さんお母さんの代表の方々、警察、岡山県と合同で通学路の点検を行い、安全に</p>

	<p>通行できるように、危険な箇所を洗い出し、どのような対策が出来るか検討し工事を行っております。対応の順番につきましては、各学校と相談しながら危険度の高い順から優先順位をつけて対応しているところです。鞆本議員が本当に危険だと思えるような場所があれば、先生にお知らせいただく事は可能でしょうか。先生を通じて危険な場所の把握が出来たらと思います。また、用水路が危険であるというお話がありましたが、用水路は、農業を営まれる方々にとっては、大切な水を運ぶ「命の源」です。水があるから田んぼで稲が育ちます。その用水路は定期的にごみを取ったり、水路の整備が欠かせません。また豪雨発生時などは色々なモノが流れてくるので、用水路は蓋をするのが難しい。かといって用水路に沿った通学路も多く、中学生が用水路に落ちる事故も起きています。行政の仕事はそのようにお互いが矛盾していることを関係者の皆様とお話ししながら対応して解決しなければなりません。市民の皆様が安心して生活して頂く為にも、しっかりと現場の状況を把握した上で、双方の意見を聞いて、どのようにする事が地区にとって最善なのかを導き出すことが重要です。命に関わる事もございますので、危険な場所は積極的に対応したいと思っています。だから市役所には各フロアに、スローガンとして「市民第一現場第一」を掲げています。鞆本議員のおっしゃるとおり、道路や川を使う側とそれを管理する側、お互いが安全を考える必要があると思います。今後も安全通行を心がけ、危険な場所に関しては、いつでもご連絡いただけますようよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
その後の取組状況	(道路整備まとめ) 前質問と同じ
担当課	建設管理課

テーマ	人口問題
質問者	4 大隈亜優美
件名	4 笠岡で問題になっている少子高齢化について
質問	<p>現在、笠岡では高齢者の増加や若い人の流出によって、少子高齢化が進行しています。高齢者の外出が減ることで飲食店やスーパーマーケット等の営業が上手くいかず、潰れる可能性があったり、地域の活動が回らず交流ができなかったりしないかと不安に思っています。笠岡市でも高齢者の外出をしやすくして施設・店の利用を増やすために高齢者タクシー料金助成事業などを行っています。これから若い人も高齢者も互いに暮らしやすい生活をするために、私達も地域が行っている交流活動、ボランティア活動に積極的に参加したり、笠岡の現状や他の地域がしている事などの知識を身につけることができなかと考えています。これからの笠岡を若い人も高齢者の方もバランス良く居て活気のよい街にするために私達にもできる範囲ではありますが、協力させていただくことはできないでしょうか。</p>
回答	<p>大隈議員の御質問にお答えします。これからの笠岡を、若い人も高齢者の方もバランス良く活気のよい街にしていくためのご提案をいただき、ありがとうございます。笠岡市から、進学等で市外に転出した人に戻ってきてもらう、また、現在</p>

	<p>は市外に住んでいる人に笠岡に住んでもらうためには何が必要でしょうか。その土地に人が住むためには、当然、住むための家が必要です。病気になれば病院も必要です。買い物をするスーパーなどのお店も必要です。子供が生まれれば学校も必要です。市役所は？・・・必要ですよ。市役所がなければ、水道も使えませんし、道路の整備やごみの収集もできなくなってしまいます。他にも必要なものはいっぱいあります。しかし、人が生活するために何よりも必要なもの、それは収入があることです。収入がなければ、買い物も出来ませんし、家賃も払えません。その収入を得るためには、働く場所があることが一番必要であると考えています。笠岡市では、市政の最も重要な施策として、企業誘致を強力に推し進めています。県営笠岡港工業用地の分譲が進み、笠岡湾干拓地の中にも大きな会社ができ、今後も確実に働く場所が増えていく見込みです。まずは積極的な企業誘致により、安定した収入の得られる働く場所を増やし、そこで働く人たちに笠岡に住んでもらう。働く世代が増えれば、結婚、住宅新築、出生数の増加に繋がり、税収が上がることで、子育て支援策、教育環境の整備、医療・福祉施策などの更なる充実が図れます。そういったサイクルを繰り返し、市全体の価値を高めることで、より多くの人や民間事業者に働く場所、住む場所として選んでもらえる、賑わいのある笠岡が創れると考えています。その内容を図で表したものが、子ども議会の初日に説明しました、「スパイラル新殿」です。企業誘致をはじめとする新たな財源の確保、その強固な財源基盤の上で、「教育三改革」、「インフラ整備」、「産業振興と観光」、「子育て・福祉の充実」という4本の柱に笠岡市の財源を集中させ、市内外からの投資を呼び込み循環させることで、親子二世帯・三世帯と一緒に暮らせる地域社会の実現（正のスパイラル）を目指しています。そうした考えのもと、子ども達に向けた教育三改革はこれから大きく動き出しますし、今年度から子どもを持つお父さん、お母さん達に向けて、いつでも相談ができるAIチャットボットを導入したり、高齢者に向けては、1人で外出が困難な高齢者等の買物や医療受診に、生活支援サポーターが付き添うサービスを始めるなど、様々な分野で、いろいろな世代の人に喜んでいただけるよう、新たな取組も実施しています。若い人も高齢者の方もバランス良く活気のあるまちにするため、笠岡市もがんばります。みなさんも将来、遠くの大学に行くことがあっても、いつでも帰って来れる場所があること、そしてふるさと笠岡には、いつでも活躍できる場所があることを忘れず、学校の勉強や部活動以外にもいろんなことに興味を持ち、挑戦して行ってほしいと思います。共にがんばりましょう。以上でございます。</p>
<p>その後の 取組状況</p>	<p>笠岡市の人口構造の課題は、64歳までの生産年齢人口が少なく、65歳以上の高齢者が多いという人口ピラミッドの逆三角形、いわゆる少子高齢化現象であり、少ない若い世代が多くの高齢者を支えている構造にあります。</p> <p>この問題の解決のため、移住定住施策や子育てや教育などへの投資を積極的に実施することにより、生産年齢人口を呼び込み、将来的に人口ピラミッドを正三角形に近づけていき、若い世代が高齢者層を支えることができる持続的な人口構造を目指します。</p>

	<p>その具体的な取組として、まずは安定して働ける場所を創り、それにより得た税収を子育てや福祉，教育に充て，定住を促進させるものです。働く場所については，干拓地内に洋上風力発電設備製造工場の建設は順調に進み，その他にも数社の誘致が予定されていることから，数百人規模の雇用が見込める予定です。そして若者に対する結婚・出産・子育てに関しては，子育て世帯への生活支援や学生服購入費用補助など様々な支援を予定しています。また高齢者に対しては，昨年からはまった生活支援サポーターにおいて，サポーター数や利用者数を倍増させ活動の更なる活発化を図っています。このような取組により，笠岡市の令和4年度の転入転出口では，転入者数が増加し始めていることから，確実に取組の成果が出てきています。今後も更に様々な取組を具体的に精度良く行って，若い人も高齢の人もバランス良く活気のよい笠岡にしていきます。</p>
担当課	協働のまちづくり課

テーマ	人口問題
質問者	13 坂部竜英
件名	13 人口が減少する笠岡について
質問	<p>現在の笠岡は，人口が減少し，働く建物や若者が集まる建物が建てられなくなっています。その建物がないから若者がいなくなり，人口が減るという連鎖ができています。若者が遊ぶところや，大人が仕事をするとところが無くなり困っています。対策として笠岡市は新卒者を会社に招き入れると市からその会社に奨励金を渡しています。今後の笠岡市のすべきことは開拓地を増やし，イオン等の大きな店をつくることだと思っています。すると，働ける，若者が遊べる場所ができるからつくって欲しいなと思いました。市のホームページやサイトで笠岡市の良いところを発信するコーナーを作ればいいなと考えました。これらの事を行うことで消滅可能性都市から抜け出し，若者が増え，発展した街になったらいいなと思います。</p>
回答	<p>坂部議員の御質問にお答えします。坂部議員には，笠岡市が消滅可能性都市から抜け出し，発展していくためのご提案をいただきありがとうございます。確かにイオンなどの大きな店をつくれれば，働ける，遊べる場所ができて人が来ると思います。しかし，実際，そのような店が笠岡に来ないのは人がいないからとも思います。これは「ニワトリが先か，卵が先か」の考えに近いものがあると思います。まずは若者が集まらないといけない，じゃあ，若者が集まってくるにはどうしたらいいか，市役所の職員を始めとする大人たちは一生懸命考えました。そして，やっぱり，働く場所がないと人は集まって来ないし，収入がないと暮らしていけない，という結論に達しました。そこで，市外の会社に笠岡市に来てもらう，企業誘致を市役所の一番の仕事として，私たちは一生懸命，誘致活動をしてきました。その結果，市内への企業誘致は着々と進み，平成28年から，これまでに500人を超える働く場所を創りました。そして現在も大きな会社が干拓の中に来てくれています。例えば，いろんな行事で使われ，皆さんの家にもあるかもしれない，ブルーシート，これを国内で一番多く作っている会社が工場を建設中です。また，</p>

	<p>聞いたことがあるかもしれませんが「カーボンニュートラル」、国が進める温室効果ガスの排出量をゼロにすることですが、これを目指す上で必要となる、一度利用しても繰り返し使える再生可能エネルギーの切り札として、洋上風力発電が期待されています。想像してみてください、海の上で高さが300m近くある、巨大な風車が回って発電する設備ですが、その足の部分を作る工場を建設しています。この工場で作られる足、土台は「モノパイル」と言い、出来上がると、長さ80m、直径10m、重さが約1,400トンもの巨大な大きさになります。ちなみにこれを作る工場は未だ国内にはなく、完成すれば国内初となります。そして400億円という建設費は、今年笠岡市が市制施行70周年を迎える中で、最大の事業となります。これらの工場が完成すると、約500人が働く場所を創ることができます。このように、笠岡市に働く場所をいっぱい創って、笠岡で育った皆さんが学校を卒業したら、いつでも帰ってきて働くことができるように、私たちは、今、皆さんが帰ってこれる場所を一生懸命創っています。そして、元気になっていく笠岡をしっかりと情報発信していきます。なので、皆さんはこれから高校に行って、大学にも行かれるかもしれませんが、その後は、必ず笠岡に帰ってきてください。そして、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんといつまでも安心して暮らすことができ、住んでよかったと「選ばれるまち」づくり、笠岡市のさらなる発展に力を貸してください。主役は君たちです！そうすれば、きっとイオンは来てくれる！・・・かもしれません。以上でございます。</p>
その後の取組状況	<p>企業誘致では、新たな工場の建設や設備投資が急速に進み、県営港町工業団地は全て完売しました。そのおかげで、平成28年度から令和3年度までの6年間で、市内に累計19社の企業が操業し、500人以上の雇用を生み出し、こうした企業誘致の効果は新しいサプライチェーンを生み出し、既存の企業の設備投資にも波及し、投資額の総額は750億円を超え、固定資産税の増加や本市の企業で働く方の賃金の上昇に繋がっています。今まで進めてきた施策「一丁目一番地は企業誘致、地場産業の育成」、働く場所を創ることに全力を注いできた結果が社会動態のプラスという形で出始めました。令和4年度の社会動態は▲122人となり、平成28年度の▲422人と比較して過去7年間で大幅に改善されました。</p> <p>また、笠岡市の良いところを発信するコーナーとして、市ホームページのトップページに白石踊等を表示するとともに、笠岡のいいなを再確認するカサオカスケッチや笠岡市観光協会などの電子サイトを通じて、また、市広報紙である広報かさおかにおいて「笠岡で頑張る人達」「いーとこ見つけた」などのコーナーを設けて笠岡を広く知っていただくよう努めています。</p>
担当課	企画政策課

テーマ	人口問題
質問者	14 大本夏輝
件名	14 若者を増やすための活動について
質問	笠岡市は今、少子高齢化になっています。高齢者に福祉という形で支えている若者に負担がかかっています。若者を増やすために笠岡市のPR動画を作るなどの

	<p>対策をしています。今後、若者に人気がある場所や食べ物を作れば良いと考えています。自分達ができることは、学校でのポスターの作成などをして少しでも協力しようと考えています。若者が増え、笠岡が発展した場所になればいいと思っています。</p>
<p>回答</p>	<p>大本議員の御質問にお答えします。まずもって、若者を増やすための取組みとして、笠岡の魅力を発信する動画の制作やポスターの作成などを検討くださり、ありがとうございます。笠岡市としても、みなさんのような柔軟で発想力のある若者が、笠岡の将来像を真剣に考えてくださっていることに、大変うれしく思います。若者を増やすことは、なかなか一筋縄にはいきませんが、一つ一つの積み重ねが、ぶどうの房のように実を結ぶものと考えています。まさに、みなさんのような若い人たちのセンスやアイデアが求められています。さて、現在、市内の中学校や高校の授業において、総合的な探求の時間として地域学などを学ばれていると思いますが、これらは、自分たちの住む地域の文化や歴史、自然、生業などを再発見し、その魅力や強みを発掘するものです。笠岡には、国指定無形民俗文化財「白石踊」や県指定無形民俗文化財「大島の傘踊り」、神島天神祭、金浦地区の「ひったか・おしぐらんど」、さらには、石の島として日本遺産に認定された笠岡諸島、広大な笠岡湾干拓地に広がる花畑、瀬戸内の美味しい海の幸や笠岡ラーメンなど、全国に自慢できる地域の宝がたくさんあります。みなさんにも、こういった笠岡ならではの祭りや行事に参加したり、風景や自然を体感、美味しいものを堪能していただき、今まで以上に笠岡を好きになって愛着を持ってほしいと考えています。その結果として、ずっと笠岡で暮らしたい、笠岡を離れても将来はまた戻ってきたいと想う笠岡の若者が増えてくれるものと考えています。笠岡市では、みなさんの世代が学校を卒業して笠岡に戻られても、企業誘致により働く場所を増やして、しっかりとした就職先を確保することはとても重要であると考えており、最重点の施策に位置付けています。これまでも、トレイのフィルム、自動車部品、高齢者向けの食品工場などの新設、増設が行われ、さらに、洋上風力発電所の部品工場やブルーシートの一貫生産ライン、バイオガス発電所などの工場も建設中で、合計で1千人規模での新規雇用、働く場所が生まれる予定です。また、若者を増やす取組みとして、笠岡市では、特に若い女性に笠岡に目を向けてもらうことを目的に、平成30年度からシティープロモーションという笠岡の魅力を全国に発信する取組みを行っています。内容としては、カサオカスケッチという名前のプロジェクトで、笠岡のすてきなヒト・モノ・コトを紹介するインスタグラム、フリーペーパーの発行を中心に行っています。また、そのインスタグラムのフォロワーを中心とした笠岡の特産品を紹介するオンラインイベントや、カサオカスケッチを手掛けているスタッフを交えた笠岡の魅力を語るオンライントークイベントなども開催しています。インスタグラムのフォロワー数も令和4年8月15日現在、4,195で岡山県公式インスタグラムのフォロワー数4,855に迫る勢いです。フォロワー数で勝負しているわけではありませんが、ある程度フォロワー数が確保できれば、さらにカサオカスケッチを見てくれる人も増えると考えています。まだまだ、我々が思っている以上に、笠岡市内に</p>

	<p>も紹介したい、すてきな人や場所があります。住んでいると気が付かないこともあります。何気ないものが興味を引くこともあり、先入観を捨ててもう一度身の回りを眺めてみてもいいかもしれません。学校や公民館の活動で、そうした地域のすてきなヒト・モノ・コトを探す機会があれば、ぜひ教えていただきたいと思ひます。よろしくお祈ひします。以上でございます。</p>
その後の取組状況	<p>笠岡市では、若者を増やす取組みとして、シティプロモーション事業を実施していますが、その中でも特に、若い女性をターゲットに、笠岡のすてきなヒト・コト・モノを発見していただき、笠岡の魅力を発信する「カサオカスケッチ」プロジェクトを展開しています。取組み状況としては、「カサオカスケッチ」Webサイト・インタグラムの運営やフリーペーパー、YouTube 動画による情報発信、さらには笠岡産の米「ひのひかり」の魅力を伝えるオンラインイベント、「笠岡の夏旅」と題したフォトコンテストなどを実施しました。成果としては、令和4年8月15日時点で4,195人であったインスタグラムのフォロワー数が令和5年6月1日時点で5,275人となり、約9か月間で1,000人を超える増加となりました。また、フォトコンテストへの応募は約1,000点に上り、笠岡に興味を持っていただく良い機会となりました。また、シティプロモーション事業以外にも、若者による「まちづくり」の一環として、笠岡に関わりのある若者が「自ら考え、企画し、実行する」をコンセプトに、「ぼっけーまち会議」という若者グループが様々な活動を行っています。取組み状況としては、笠岡諸島を巡るツアー、ミナトの休日・土曜夜市への出展、御嶽山の登山、笠岡東中学校の生徒とのコラボによる学習成果発表展示会の開催、耕作放棄地を利用した「かぼちゃ」づくり体験など、月1回程度の活動を行いました。このような活動は、笠岡のすてきなヒト・コト・モノを再認識していただくきっかけとなり、より笠岡を好きになっていただくことで愛着が生まれ、笠岡に住み続けたいと思ひる若者が増えていくものと考えています。</p>
担当課	定住促進センター

テーマ	子育て支援
質問者	16 田中董
件名	16 子育てに関して、これからどんな取組み、私達ができる取組について
質問	<p>夏休みに入り、ニュース番組などで、児童虐待や育児放棄などの子育て関連の話題が取り上げられているのをよく見かけます。児童虐待や育児放棄が起こってしまう原因の1つとして「住んでいる地域の環境」が大きく関わってきます。笠岡市でもそのような事例が起こっているということを市の職員の方に聞きました。このような人達だけでなく、全ての家庭に平等に子育てに関する問題に対応ができていいのか心配です。笠岡市では子育て支援の給付金や、困っている家庭に少しでも手助けができるよう専門の職員が対応しています。今後もこのような活動を続け、子育てする人達や親が安心して安全に子育て、子どもに質の良い学習を受けさせられる環境を更に整えていくことが必要だと思ひます。これからこの課題にどう向き合い、どう解決していくか知りたいです。また、私達学</p>

	生にも取り組める活動はあるでしょうか。
回答	<p>田中議員の御質問にお答えします。宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」は皆さん観たことがあるでしょうか。当然ながら世界中で上映されているのですが、アメリカでは一部のシーンがカットされて放映されています。それは何かというと、お父さんと娘のサツキとメイと一緒に楽しくお風呂に入っている場面なのです。アメリカではこれは性的虐待を助長するということでカットされたわけですが、日本との文化の違いで虐待のとらえ方も変わってくるということです。</p> <p>厚生労働省によると、2020年度に全国の児童相談所が対応した児童虐待の相談件数は20万5,044件に上り5年間で倍増しています。しかし、本市では、虐待を含めた年間の児童相談対応件数は2021年度以前の過去10年間は、年60～70件程度で推移しています。虐待として最終的に子どもに手を上げてしまうようなことに至るまでには、家庭のいろんな状況というものが背景にあります。お金の問題、保護者の病気や精神的に不安定な状態、保護者も虐待を受けていた経験がある、あるいは地域から孤立するなど様々です。そこで、市役所内の子育て支援課では、社会福祉士、保健師、臨床心理士、看護師、母子自立支援員そして家庭相談員といった専門職をそろえ、あらゆる場面を想定して早期に支援が必要な家庭の見守りを行っています。さらには、児童相談所、警察、学校や保育園そして地域の民生委員と連携して、虐待と疑われるケースがあれば速やかに訪問するなど対応を徹底しているところです。もちろん子どもに危険が迫れば、私たちは厳しい対応として子どもの一時保護を行います。一方で、経済的に困っている方、あるいは育児で悩まれている方などには、専門職がしっかりとサポートを行っているところです。先ほど、となりのトトロで文化の違いをご説明しましたが、家庭の環境もそれぞれ違い、人間が生活する上で、普段使われるコミュニケーションツールである「言葉」も人それぞれ違いがあります。皆さんも中学生で先輩になった方も多いでしょう。チームやメンバーの一員あるいはそのリーダーとして活躍する場面が多いと思います。そんな時、先輩からかけられる「言葉」、友達同士での「言葉」そして、後輩にかける「言葉」というものを考えてみてはいかがでしょうか。相手のことを思いやった会話になっているのでしょうか。お互いのことをリスペクトし合い、友達同士、学校、そして家庭や地域でコミュニケーションが円滑になることで、みんなが思う「いい社会」に近づき、さらに、学校内において障がいの有無、肌や髪の毛の色、出生地など人それぞれの違いや個性を自然に受け入れ、支えあい、互いに認めあうことで、女子生徒がスラックス、男子生徒がスカートを履いて登校しても違和感を感じることものないような差別や虐待のない「共生社会」へと近づくのではないかと考えているところです。そういった中で、身近に友達のSOSを感じ取ったならば、いつでも先生や家族そして地域の大人に伝えていただくようお願いいたします。きっと、トトロが猫バスを呼んでくれたように、助けになってくれると思います。以上でございます。</p>
その後の 取組状況	引き続き、社会福祉士、保健師、臨床心理士、看護師、母子自立支援員、家庭相談員といった専門職職員を中心と、必要に応じて児童相談所、警察、学校や保育園等と連携しながら、個々のケースに寄り添い、支援を行っています。また、

	就学前教育・保育施設と連携し、支援が必要と思われる家庭を早期に発見し、虐待等に至る前に、未然に防ぐための取組を行っています。子育て家庭全体への支援としては、物価高騰等の影響を受ける子育て世帯に向けて、18歳未満のお子さんを養育している家庭への給付金や小学校入学時の制服購入費の補助について、現在準備を進めているところです。
担当課	子育て支援課

テーマ	学校関係
質問者	11 中村人和
件名	11 人口が増えたら小中一貫校にしなくてはよいのではないかについて
質問	<p>笠岡市は年々、人口が減少しています。そのため、小中一貫校になるかもしれません。そうすると、現在金浦中学校がある場所に校舎を設立することになると聞きましたが、金浦は海拔がとても低く、金浦中学校の一階は海拔0mと表記されています。だから新しい学校を建てるには安全面的に適切ではないのかと思いました。また、城見や陶山から金浦に通うことになると、スクールバスが必要だと思えますが、まずスクールバスを購入する資金がかなり必要だと思うし、スクールバスでの通学となると、バスに乗り遅れた人は、家が遠い場合や、家の人の仕事で送迎が困難な場合は、バスに乗れなかった時点でその日学校に登校するのが難しいと思います。私はこの2点から、将来小中一貫校に通う人、その家族などが不安になるのではないかと思いました。ですが、人口が増加してゆけば、小中一貫校にしなくてもいいのではないのでしょうか。また、小中一貫校になる場合は、もっと海拔などの安全面や、登校方法など、金浦の環境整備に取り組んだり、新校舎を設立する場所をもっと安全な場所にしたりと、市役所で検討し、学校に通う全員が安心して通えるようにしたら良いと思いました。人口を増加させるために私たちができる事は笠岡の動画などを作りPRしたり、特産品について授業などを使って調べ、もっと広めていくことなどだと考えています。</p>
回答	<p>中村議員の御質問にお答えします。これからの子どもたちが直面する社会は、高度情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展することが予想されており、先を見通すことがますます難しくなると考えられます。子どもたちが、このような社会を強く生き抜いていくためには、様々な変化に積極的に向き合い、自分の能力をフル活用して、他者と協働して課題を解決していく力を育むことが重要となってまいります。本市のめざす教育や求められている教育が時代と共に変化してきているなか、小中一貫教育の実施については、人口減少を理由としているのではなく、新しい時代にふさわしい教育制度、そしてその環境を整備するために推進しているものでございます。小中一貫教育校では、義務教育9年間を通じて切れ目のない連続した教育ができます。金浦中ブロックでは小学校と中学校が同じ敷地の中に一体的に整備する施設一体型小中一貫教育校になります。小学1年生から中学3年生までの違った学年の子どもたちが関わりを通じて、ふれあい、助け合いながら、互いを思いやる気持ちが育ち、幅広い交友関係が生まれてきます。中学生には上級生としての自覚が生まれ、小学生に</p>

	<p>は中学生にあこがれの気持ちを抱いたりするようになるなど、子どもたちの社会的、精神的な成長を期待しているところです。また中学1年生になった時に、いじめの件数、不登校生徒数などが増加する傾向が見られることから、小中一貫教育校では、小学生の時から中学校の様子を体感できるような、学校行事や交流学習を実施してまいります。安心感を与え、中学校へ進学する時期に見られる問題、いわゆる「中1ギャップ」を無くしたいと考えています。授業では、学力や学習意欲の向上を図るために、小学校での一部教科担任制による授業や、小・中学校の教職員が連携して相互の乗り入れ授業を行います。例えば、中学校英語の先生が小学校で専門的に教えたり、小学校低学年からALTのネイティブ英語に触れる授業を行うことができるなど、中学校の教科の先生から、専門的な教育を小学生に届けることができます。また地域の方々がいつでも交流できるスペースを設け、児童生徒や教職員はもとより、地域の方々も一緒になって「地域ぐるみで人を育てる」「子どもたちを地域が支える」学校にしていきたいと考えています。このたび、中村議員から通学路、スクールバス通学などのご不安をお聞きしました。松浦副市長も金浦中学校出身で、当時は用水路に落ちて、そのまま泳いだという話を何度も聞かされました。一方で、用水路は農家の皆さんにとっては大切な「命の源」であり、水が無ければ稲は育ちません。用水路は常にごみや藻が茂るので、排水機能を維持するには定期的な清掃を欠かすことができません。地域の水利組合の皆さんが常日頃から用水路を整備していることにより、豪雨災害時に地域に降った雨水は迅速に排水され、浸水被害の拡大を未然に防いでいます。このように様々な立場の方がいるなか、現場の状況をしっかりと把握しながら、適切に合意形成を図るのが我々、市の仕事であります。児童生徒の皆さんが心配なく安全に学校生活を送られるように、本市があらゆる面から安全対策を徹底しますので、ご安心ください。世界に目を向けますとスクールバスでの通学は、スタンダードであり、本市においても国から運行費用が交付されますので、それを活用して取り組んでまいります。これからの、複雑で予測困難な社会の変化に対応しながら厳しい時代を生きる皆さんは、自らの手で自らの人生を切り拓いていかなくてはなりません。小中一貫教育校で、多様な価値観を知り、受入れ、共に育ち、夢に向かって努力し続けている姿に出会えることを楽しみにしています。本市において現在、企業誘致活動や地域経済対策、定住促進施策、儲かる農業の推進、子育て・福祉の充実など重層的な取組を展開して、働く場所の確保や人口減少対策、住みやすいまちづくりを推進しています。今後皆さんが笠岡市を離れることがあっても、働き続けられる環境をつくっておきますので、素晴らしい大人になって、ぜひ再びこのふるさと笠岡に帰ってきて、活躍していただきたいと願っております。以上でございます。</p>
<p>その後の取組状況</p>	<p>令和5年度、笠岡市の小中一貫教育が本格スタートしました。6つの中学校ブロックそれぞれで、小・中学校が1つの学園として共通の目標を掲げ、9年間を通して系統的な教育活動が展開されています。そして金浦中ブロックでは小・中学校を同じ敷地の中に、施設一体型小中一貫教育校として建設するための準備を進めています。小学校高学年では、中学校からの乗り入れ授業や教科担任制が行い</p>

	<p>やすくなり、学力向上につながると考えています。また地域の方々がいつでも交流できるスペースを設け、教職員はもとより地域ぐるみで人を育てる学校にすることを考えております。さらに毎日多くの学年の仲間と生活することから、高学年へのあこがれや目標、低学年への思いやりや上級生としての自覚が生まれます。多様な個性と出会い、友達の考えを受けて自分の考えを広げたり、力を合わせて物事を成し遂げたり、目標に向かって競い合ったりする中で、自分を信じる自己肯定感、自制したり我慢したりする力、意欲をもって根気よくやり抜く力、協調性やリーダーシップなどを高め、他者と共存して社会で活躍できる人材となることを願っています。</p> <p>なお、小中一貫校の校舎を新設する際には、既存の中学校棟と同様に杭を打ち、1 m程度嵩上げを行うことや、北側の敷地境界に土留めとなる擁壁を整備することなど浸水や土砂災害等への対策を検討しており、しっかりと安全対策を行ってまいります。</p>
担当課	教育総務課 学校教育課

テーマ	学校関係
質問者	15 遠藤このみ
件名	15 みんなが平等に生活するための活動について
質問	<p>私の学校でも笠岡市内の中学校でも学校から家が遠い人は自転車で登下校し、学校から家が近い人は歩いて登下校をしています。荷物が多い日や重い日、暑い日や部活後の帰りに、熱中症などになるリスクが高いため心配です。このルールは昔、生徒数が多い時のルールであり、今では生徒数が減っていて私の学校でも自転車置き場が余っています。なので、学校から家が近くても自転車で登下校できるようにしてほしいです。今後、私達もその日にない教科の教科書は持ってこないようにしたりして自分達で工夫をしていきたいと思えます。実現できた場合は、自分達で管理できるようにしたいです。これからもみんなが平等に生活できる地域になるために進めていただけないでしょうか。</p>
回答	<p>遠藤議員のご質問にお答えします。中学校の自転車通学に関わる決まりはそれぞれの学校で決められており、その許可については、多くの学校において家から学校までの距離が一定基準以上離れていることを条件としています。自転車は身近な乗り物ですが、使い方によっては大きな事故の被害に遭ったり、逆に事故の加害者となる場合もあつたりする、危険な乗り物であるともいえます。令和2年度の岡山県内の自転車による交通事故の状況ですが、中学生の全交通事故のうち、自転車に乗っている時によるものが88.9%、高校生の全交通事故では78.7%となっており、そのうち加害者になっている割合は28.5%となっています。そして、自転車に乗っている時の事故のうち登下校時が、中学生58.7%、高校生75.0%となっています。中学生でよくある自転車での事故は、並列で登下校している時に、まず自転車で並列運転をしてはいけないのですが、お互いの自転車が引っかかり、こけて田んぼに突っ込んだり、入学してすぐは、自転車が大きいために、よろよろしながら溝に入ってしまったということはよくあります。登下校の短い</p>

	<p>時間帯に多くの自転車が行き来する中、若い中学生の命に万が一でも危険がないよう、自転車通学の許可は、学校を取り巻く様々な環境を考慮し、保護者のご理解を得て、学校が判断しているものだと思います。こうした中、学校に自転車通学のきまりがあることは、理由として適切だと考えられます。しかしながら、生徒数が減少している中で、距離による基準を短くするなどして自転車通学の生徒の割合が増加しても、中学生のみなさんが安全な乗り方を守れば、大きな危険にはつながらないという可能性は考えられます。学校のきまりについて協議する方法は、個人的に先生に意見を言う方法のほか、生徒会活動等でもしっかり議論することができます。学校の校則やルールは、社会や時代の変化に合わせて変えていかなければいけないものです。生徒が主体となって、これまで当たり前とされてきた学校の校則やルールについて考え、学校や地域・保護者とともに対話しながら、見直しに取り組んでいくことが、現在の学校では求められています。自転車での登校に限らず、学校生活をより楽しく快適にするためには、生徒会という組織の中でしっかりと議論し、対話をしていく中で、みんなが納得する新しいルールを作っていくことが必要となります。教育委員会としても、そんなみなさんの自主的・主体的な活動を応援します。それぞれの学校において、生徒会、学校、保護者、その他関係者がしっかり意見を出し合いながら、現在のきまりについて、今のまま維持するか、それとも変えていくのかを決めてもらいたいと思います。以上でございます。</p>
その後の 取組状況	<p>市内の島しょ部を除く中学校7校のうち、自転車通学を自宅からの距離に関係なく認めている学校は5校で、そのうち2校は昨年度の子ども議会以降に「きまり」を改定しています。残り2校も生徒会と学校が協議中です。</p> <p>校則の改定は、生徒総会で出された意見を生徒会と教職員、PTAで話し合い、時代の変化に応じて柔軟に改定しています。教育委員会としても、皆さんの自主的・主体的な活動を応援しています。</p> <p>【以前から自転車通学を距離に関係なく認めている学校】 金浦中学校、新吉中学校、神島外中学校</p> <p>【子ども議会以降に改定した学校】 大島中学校、小北中学校</p> <p>【協議中の学校】 笠岡東中学校、笠岡西中学校</p>
担当課	学校教育課

テーマ	離島振興
質問者	12 岡田優志
件名	12 - ① 笠岡島しょ部の人口問題について
質問	笠岡市の島から人がいなくなっていると聞きました、六島小学校の全校生徒は一人と大変少ないです。神島外中学校には島しょ部から通っている友達がいます。島しょ部から通っている友達の過半数が「中学校、高校、買い物に島から行きにくい」と言っていました。島と陸をつなぐ船の数が少なく、運賃が高いため


	<p>気軽に島から出れないとのこと。市は島にできるだけ長く住めるように対策しています。島に住んでいる高齢者が安心して長く生活できるように介護施設を島に配置しているのもその対策の一つです。今後も島に高齢者や若者、広い範囲の世代が長く生活できるようにするべきだと考えます。そのためには、島に住みながらも買い物や学校に行きやすくするべきだと考えます。例えば、島と陸をつなぐ船の1日に往来する数を増やしたり、船の運賃の割引制度を作るなどです。島しょ部に安心して長く生活できるようにしていくために、ぼくたちも島の情報発信、六島ユースターなど協力させていくことはできないでしょうか。</p>
<p>回答</p>	<p>岡田議員の御質問にお答えします。1項目めの笠岡島しょ部の人口問題につきましてお答えします。昔、笠岡市の島しょ部にはたくさんの方が住んでいました。海ではイワシがたくさん獲れるなど漁業が盛んで、また、北木島の石は大阪城の石垣や多くの有名な建築物に使われるなど石材業も盛んなど、島にはたくさんの産業があり、ほぼ全ての島に小学校・中学校があり、今では信じられないかもしれませんが、なんと、人口は2万人を超えていました。しかし、昭和の中頃から、そういった主要産業が衰えてくると、加速度的に住む人も少なくなり、次に船に乗る人が減り、その次に船の便数が減り、そして、船を維持するために運賃が上がるという悪循環に陥ってしまい、現在では、全ての島を合わせても人口は1,400人を切り、小中学校も3校だけになってしまいました。岡田議員さんがご指摘のように、笠岡市では、島しょ部に高齢者や若者、広い範囲の世代ができるだけ長く生活できるように、これまでも様々な対策を行ってきました。船の面では、高校生への定期代の補助、高齢者への病院に通うときの無料券配付を行い、医療や介護の面では、医療機関の協力を得て各島への診療所の設置やデイサービスやグループホーム等の経営を支援し、子育ての面では、小さいお子さんを育てるご家族を支援するために白石島に託児施設を新たに創りました。また、海底に水を送る管を敷き、全部の島で水道が使えるようにするとともに、現在は、ケガをした人を運ぶ、専用の救急艇を造っています。「需給バランス」という言葉をご存じでしょうか？需要と供給の釣り合いという意味ですが、現在は人口減少に伴い、船に乗る人が減り、船を維持するために運賃が上がっているという状況です。人口がこれからも減っていくと、さらに運賃が上がるかもしれません。このバランスを正しくするには、ズバリ、島しょ部に住む人や訪れる人を増やすことが必要です。ご存じかと思いますが、笠岡諸島は令和元年に石の島として日本遺産に認定されました。現在、新型コロナウイルス感染症の影響はありますが、徐々に観光客が増えてきています。また、普段の職場から離れ、島などでテレワークを活用して働いたり、ゆったりしたりする「ワーケーション」や、普段は都会で暮らす人が一定期間だけ地方で過ごしたりする「二地域居住」などの、現在の時代にマッチした生活スタイルが可能になるような整備を行う必要があると思っています。そして、もちろん情報発信も重要です。市役所が少し苦手としている部分ですので、協力いただけることは大歓迎です。若い人達への情報発信には、議員の皆さんのような、若い皆さんのセンスやアイデアが必要です。どのようなことができるのか、力を合わせて一緒に考え、元気になっていく笠岡をしっかりと情報</p>

	発信していきましょう。こうした施策をとおして、島しょ部に住む人や行く人が次第に増えていけば、次に船に乗る人が増え、その次に船の便数が増え、そして、運賃が下がるという正の循環が期待できます。これからも、島しょ部にお住まいの人達がいつまでも安心して暮らし続けることが出来るよう、知恵を絞り、そして実行し、住んでよかったと感じていただける「島づくり」に努めてまいります。
その後の取組状況	海の救急車である救急艇「みたけ」が完成し、4月から毎日訓練を行って、7月から業務を開始しました。今後も島しょ部の医療、福祉の体制整備に努めてまいります。また、情報発信においては、笠岡市の特色を盛り込みながらも、誰もが簡単に欲しい情報を得られるよう、今年度中に市ホームページの改修を実施する予定です。従来よりもさらにわかりやすい内容とするだけでなく、SNSと連携した情報発信ができるようになる予定です。さらに、今年度から島しょ部の小中学生の交通費補助を拡大し、離島留学を対象に含めるなど、島しょ部と陸地部の生活になるべく差が生じらないような施策を実施しています。このほかにも、地域おこし協力隊など、島しょ部にかかわる様々な方の力を合わせて、島しょ部にお住まいの人達がいつまでも安心して暮らし続けることが出来るよう、これからも努めてまいります。
担当課	企画政策課

テーマ	離島振興
質問者	12 岡田優志
件名	12-② 島しょ部と陸をつなぐフェリーについて
質問	北木島、白石島などの島には美しく穏やかな海水浴場があります。しかし、フェリーの乗り方がよく分からないので、島に行くのが難しいと感じています。初めてフェリーに乗る時、いつどこで運賃を払うのか、フェリーに「乗っていいですよー」と言われるが、どこに向かえばいいのかなど説明がないのでハードルが高いです。フェリーを利用したいのに乗り方が分からず二の足を踏む人もいます。初めてフェリーを利用する人が安心して乗れるようにする必要があります。例えばフェリーで島に行くまでの一連の流れを動画にしてSNSに投稿する、フェリーの時刻表を今より見やすくする、などがあります。初めての人も安心してフェリーで遊びに行けるように僕たちが協力できることはありますか。
回答	2項目めの島しょ部と陸をつなぐフェリーにつきましてお答えします。今年の夏は、新型コロナウイルス感染症による行動制限がないこともあり、連日、多くの人々が島しょ部に海水浴等に訪れており、北木島・白石島へはフェリーが伏越港から出ています。しかしながら、乗り方が分かりづらい等の理由で、フェリーに乗ることができないのは大変残念なことだと思います。今後につきましては、初めてフェリーを利用する人が安心して乗ることができるよう、フェリー会社に協力を依頼し、待合所の案内表示を大きく分かりやすく掲示したり、時刻表や料金をモニターに表示したり、スマートフォン等から見るように努めてまいります。そして、岡田議員さんにお願ひがあります。それは、ぜひフェリーに乗って、日本遺産となった北木島の丁場や、白石島の海水浴場など、ゆったり・

	<p>まったり・のんびりとした笠岡諸島に足を運んでいただきたいということです。そこで、フェリーの乗り方を始め、自分の目を見たものや感じたこと、撮った写真を、友達や家族を始めとする、たくさんの人にしゃべったり、写真を見せてください。島しょ部のことを少しでも多くの人に知ってもらうことで、フェリーに乗る人も増え、その人たちが情報発信することで、さらなるPRにつながっていきます。先ほども申し上げましたが、若い人達への情報発信には、若い皆さんのセンスやアイデアが必要です。島しょ部の発展に、ぜひ、若い力で協力していただけますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
その後の取組状況	<p>伏越港について、現在、(一社)笠岡市観光協会と、就航しているフェリー会社3社の運航時刻・料金等を掲載する分かりやすい案内表示の作成を検討しています。</p> <p>また、本市にはフェリーに乗るための伏越港と旅客船に乗るための住吉港があります。白石島と北木島へ行く際にはフェリーでも旅客船でも行くことができますが、高島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島へはフェリーは運航していませんので旅客船を利用していただきます。住吉港には笠岡諸島交流センター(みなとこばなし)という旅客船ターミナルがあり、そこでは切符やお土産の購入もでき、冷暖房完備で多目的スペースもあり、旅客船を待つ間、快適に過ごしていただけます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が一段落し、観光客等の増加が見込める中、若い方を含めた多くの方々へ笠岡諸島へお越しいただきたいと考えております。そのために、伏越港及び住吉港での乗船がスムーズに行われるよう環境の向上に努めてまいります。</p>
担当課	企画政策課





発行 令和5年8月
編集 笠岡市総務部総務課
〒714-8601
岡山県笠岡市中央町1番地の1
T E L 0865-69-2121
F A X 0865-63-0228